

ELLE DECOR

JAPAN

THE WORLD'S
LEADING
DESIGN & LIFESTYLE
MAGAZINE

www.elle.co.jp/decor/



Magazine Cloud
電子版でも読めます

“映え家電”が
インテリアを生かす

イタリア新世代
デザイナーの条件

いつかは屋根を庭に!

住む人が見える
個性派の家

No.157
OCTOBER
2018
エル・デコ

10

条件3

実験的創作に挑む、20代デザイナー

いま、世界のどの国よりも新世代デザイナーの層が厚いイタリア。1980~90年代生まれの彼らは、易々と前例なき道を疾走していく。



©SARA MAGNI

©SARA MAGNI



上：大理石に真鍮のハンドルをつけた「Dama」コレクションの小物入れ。蓋の内側はミラーになっている。下：ピンクのベルベットを張り地に用いた椅子「Sophie」。フレームをあえて見せる構造を取り入れた。

フェミニンな洞察力でデザインを革新する

フェデリカ・ピアジの作風に一貫するのは「エレガンス、ライトネス、フェミニティ」。ミレニアルピンクに包まれたイージーチェア「Sophie」や、複数の大理石を用いた小物入れ「Dama」には、彼女らしさが色濃く反映された。ただトレンドに精通する一方で、世界が本質的に必要とするものをデザインしたいという意欲も強い。「似たり寄ったりの有名ブランドに頼らず、自分たちの世代でデザインを革新したい」。そんな気概にあふれるデザイナーだ。

Federica Biasi

フェデリカ・ピアジ

1989年、ミラノ近郊のサロンナ生まれ。ミラノのヨーロッパ・インスティテュート・オブ・デザインを卒業し、オランダ滞在を経て2015年にスタジオを設立。今年1月のメゾン&オブジェでは、アンドレア・ブランジの推薦でライジングタレントに選ばれた。



©FEDERICA BIASI STUDIO

テクノロジーとアートを結びつける俊英

「現在のデザインは、深さを追求するだけでなく他領域への広がりも欠かせない。どんなプロジェクトも、より複雑なシステムの中で成果をもたらすのだから」と語るアントニオ・ファッコ。その卒業制作をジュリオ・カッペリーニがピックアップして一躍注目された彼は、現代のテクノロジーの進歩を背景に、ものよりも状況のデザインを意図しているようだ。イタリアに受け継がれる歴史と創造の精神も忘れない、前向きな姿勢がまぶしい。

フロアランプ「Mondo」は、4枚の可動式のシェードを備え、その動きによって多様なパターンを生み出す。インタラクティブな要素をもつ照明器具だ。



Antonio Facco

アントニオ・ファッコ

1991年生まれ。ヨーロッパ・インスティテュート・オブ・デザインを卒業後、カッペリーニとコラボレーションを行う。2015年に自身のスタジオを設立。アートから物理学まで視野は広く、インテリア、プロダクト、グラフィックなど多岐にわたるデザインを手がける。